

令和7年度 清原中央小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

児童の心身の発達にふさわしい教育を推進し，豊かな思考力・判断力・表現力を培い，心の教育を重視しながら，強じんな気力・体力と思いやりのある心や自主的精神に満ちた実践力を身に付け，自らの向上とより良い社会の発展に貢献しようとする，心豊かでたくましく生きようとする人間を育成する。

◇ 具体目標（目指す児童像）◇

- 1 自ら学びくふうする子ども（考える）
- 2 元気でがんばる子ども（鍛える）
- 3 礼儀正しく思いやりのある子ども（思いやる）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

児童指標・合言葉 「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」 ～考える 鍛える 思いやる～

心豊かでたくましい子どもの育成には，子どもが生き生きと楽しく学習や活動に取り組み，明るく活気のある学校づくりが重要であることから，目指す学校像を次のとおり定める。

- 目指す学校像1 「子どもが楽しく学び，居がいを感じる学校」
- 目指す学校像2 「教職員が協働し，指導力を発揮する学校」
- 目指す学校像3 「保護者・地域から信頼される，魅力ある学校」

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

全職員が学校教育目標の共通理解に努め，調和の取れた教育活動を展開し，合言葉や具体目標の重点化を通して，教育目標の具現化に努める。

- (1) 常に「全ては子どものために」を念頭に置き，一人一人が清原中央小学校の職員であることの自覚と誇り，危機管理意識をもって勤務し，公務員及び教職員としての資質や指導力の向上に努める。
- (2) 職員一人一人が率先垂範の精神で児童の教育にあたり，その姿勢を通して児童に学ぶ意欲や思いやりの心を育てる。また，一人一人の児童の夢を育む教育活動「夢いっぱいプロジェクト」について継続的な推進を図るとともに，確かな学力，個性を生かした教育と生きる力の育成に努める。
- (3) ○地域学校園内の小中学校はもとより，保護者や地域社会，各種団体との連携を密にし，地域の教育力を生かし，地域に開かれた信頼される学校にする。

【清原地域学校園教育ビジョン】

自己を見つめ，自己のよさを生かした夢の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成
～人や地域との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 本校教育課程は，日本国憲法・教育基本法・学校教育法及び同施行規則，小学校学習指導要領，並びに栃木県教育振興基本計画2025や「宇都宮市第2次学校教育推進計画後期計画」・「清原学校園教育ビジョン」に基づき，創意ある教育課程を編成する。
- (2) 本校教育目標・経営方針や努力点・学校課題等を踏まえ，「学校マネジメントシステム」による学校評価結果を反映させながら，地域社会や保護者の願い，児童の実態・特性，学校の施設・設備，職員組織の実態等を十分考慮して，心豊かでたくましく生きる児童の育成を目指して編成する。
- (3) 地域と連携しながら全教育活動を有機的に関連させ，「深い学び」を実現することを目的としたカリキュラムマネジメントを働かせる。また，モジュールの有効活用等により，確かな学力を身に付けるための適正な時数の確保に努めるとともに，子どもと向き合う時間を確保するための業務改善を図る。その際，学習指導要領における「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力，人間性等」の資質・能力を一人一人の児童が確実に身に付けられるようにすることを目指して編成する。
- (4) 児童の自主的・実践的活動や体験的な活動を多く取り入れた特色ある教育活動が展開できるよう編成する。なお「社会に開かれた教育課程」の観点から地域等の意見の反映にも努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

<p>【 学 校 運 営 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童、職員にとって楽しく居がいとやりがいのある、活力ある学校づくり ・教員の危機管理能力の向上と教員としての感性を磨く意識の向上 <p>○地域との豊かなかかわりを通した小中一貫教育の実施</p> <p>【 学 習 指 導 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもち、豊かに表現する児童の育成（ICT 機器を有効に活用した授業づくり） ○地域の教育資源等を有効に活用し、清原地域への親しみを育む教育活動の展開 ・基礎基本の定着に向けた教材研究、授業改善や「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識した授業改善 ・小学校高学年の教科担任制推進 <p>【 児 童 生 徒 指 導 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時と場に応じて、自ら進んであいさつができ、思いやりを行動で表し、積極的に友達と関わり合える児童の育成 ・積極的な教職員間の情報共有による、いじめ等問題行動の早期発見、初期対応の迅速化 <p>○児童生徒指導連絡協議会等を通した校種間の情報交換の充実</p> <p>【健康（体力・保健・食・安全）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの健康・体力の維持向上に関心をもち、生涯にわたって健康で安全な生活をしようとする児童の育成 ・学校医と連携した、虫歯や視力低下等の予防に関する意識の向上

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-（1） 確かな学力を育む教育の推進	<p>A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを明確にし、考える時間を確保したり、授業形態を工夫したりするなどして、児童が積極的に学習に取り組めるよう支援する。 ・グループ学習や話し合い活動を積極的に取り入れることで、自信をもって発表したり、意欲的に学習に取り組んだりできるように支援する。 ・学校便りや学年便り、学校ホームページ等で児童の日々の学習の様子を掲載し、保護者に発信していく。 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が87.0%、教職員が90.9%、保護者は85.4%で数値指標を上回った。 ・グループ活動や話し合い活動などの学習形態を工夫してきたので、児童が積極的に学習に取り組むようになった。 ・宇都宮モデルを基盤にした授業を行ったことで、ねらいが明確になり、児童が積極的に学習に取り組めるようになった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりで、児童の学習の様子を随時発信し、保護者にも学習の取り組みの様子が伝わるようにする。 ・次年度も、授業のねらいを明確にし、考える時間を確保したり、授業形態を工夫したりするなどして、児童が積極的に学習に取り組めるよう支援する。 ・次年度も、グループ学習で話し合い活動を積極的に取り入れることで、自信をもって発表したり、意欲的に学習に取り組んだりできるように支援する。

<p>1- (2) 豊かな心を 育む教育の 推進</p>	<p>A2 児童は、思いやりの心 をもっている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域 の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動や学校行事などに縦割り 班活動を積極的に取り入れ、上級生が 下級生の面倒をみる場を設定する。ま た、清掃班編成を2回とし、交流の機 会を広げる。 ・道徳科の授業と全教育活動との関連 を図り、思いやりのある豊かな心情を 育む。また、思いやりと感謝について の生活目標を設定する回数を増やし、児 童への意識付けを行う。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が91.2%、 教職員が100%、保護者が91.3%で、数 値指標を上回ったが、地域が87.5%で 数値指標を下回った。 ・年間2回の清掃班編成を継続し、同一 児童による活動期間を長く確保したこ とで、意思疎通を図りやすい関係を築け た。 ・帰りの会での発表の機会や生活目標 の設定により、親切にされたことへの感 謝ができるよう指導してきた。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃班の編成頻度と帰りの会での指 導を継続し、交流や認め合う機会を充実 させる。 ・道徳の授業や教育相談等の機会を促 え、活動のふり返りをする等、自分のさ れた親切、自分がした親切を意識でき るよう促す。 ・収穫祭や農園活動、登下校等におい て、地域の方との関りに対する感謝の気 持ちをもてるよう、事前や事後の指導を 行う。
	<p>A3 児童は、目標に向かっ てあきらめずに、粘り強 く取り組んでいる。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の 肯定的回答85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が活躍する場を工夫したり、実 情に応じて児童が活動できることを 提案したりするように努める。 ・夢いっぱいプロジェクトに具体的 な内容を盛り込んだ目標を設定し、そ れに向かって取り組む態度を育て、報 告会で、自分ができるようになったこ とを実際に披露する機会を設ける。 ・学級懇談会で夢プロジェクトの取 組みについて保護者に周知する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合が、児童が86. 7%、教職員が90.9%で数値指標を 上回ったが、保護者が79.2%で数値 指標を下回った。 ・長縄大会や日々の各教科の学習にお いて、児童が粘り強く努力する場を設 け、目標に向けてあきらめずに取り組 む姿が見られた。 <p>A</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が活躍する場を工夫したり、実 情に応じて児童が活動できることを提案 したりするように努める。 ・行事に関しては、学校だよりやHPな どで情報を発信していく。 ・地域学校園で、キャリア教育につい ての情報共有を密に行い、より充実した 実践を目指す。
<p>1- (3) 健康で安全 な生活を実 現する力を 育む教育の 推進</p>	<p>A4 児童は、健康や安全に 気を付けて生活してい る。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域 の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域のスクールガードと 連携を図りながら、児童が健康安全を 意識した行動を習慣化できるように する。 ・指導に関する環境を整えたととも に、むし歯予防への意識を高めてい く。 ・保健便りなどの各種便りについて、 さくら連絡網を活用し、保護者に情報 を発信していく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が93.1%、 教職員が95.5%、保護者が89.5%、地 域が100%で保護者以外は数値指標を 上回った。 ・昼休みに運動委員会を中心にイベン トを行い、体力向上につなげた。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も保健便りや食育だよりなどの 各種便りについて、さくら連絡網を活用 し、保護者に情報を発信し、連携を図 っていく。 ・児童がタブレットを使用した際に30 m先を30秒見るなど健康安全を意識し た行動を習慣化できるような指導を充 実させる。

<p>1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答90%以上</p>	<p>○「夢いっぱいプロジェクト」の活動を通して、目的意識や活動の意義を児童がより深く認識できるようにする。 ・夢やめあてを表すときに、具体的に数値化することで、目標を明確にし、より高い目標に向かう児童の姿を目指す。 ・縦割り班、登校班などの異学年交流で、上学年が下学年のために何ができるか考える機会をもつ。下学年は、上学年に対して憧れをもてるような機会を設け、学級担任が助言を行う。 ・教科や学級活動の授業において、児童が自分たちの生活をよりよくしようとする意識を高めるような言葉かけを行う。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が87.9%で数値指標を下回り、教職員が95.5%で数値指標を上回った。 ・「夢いっぱいプロジェクト」の活動を通して、めあてを達成する喜びを味わう機会を得ることができ、さらなる自己肯定感の高まりにつながった。 【次年度の方針】 ・個人だけでなく、学級全体、児童会活動などにおいても、めあての達成に向け、個々の役割を果たせるように支援していく。 ・縦割り班、登校班などの異学年交流を通して、自分のよさや成長を実感し、生活をよりよくできるように言葉かけをする。 ・「書くことキャンペーン」など、児童自身がこれまでの蓄積をふり返り、成長を実感できる取り組みを実施する。</p>
<p>2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答85%以上</p>	<p>・ALTと事前に打合せを行い、役割分担を明確にすることによって、ねらいに沿った授業を展開する。 ・情報委員会と連携し、給食時に英語の歌などに触れさせ、授業以外でも英語に親しむ機会を設ける。 ・外国語主任が中心となり、校内研修を開催するなど、教職員の資質向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が86.4%、教職員が95.5%で数値指標を上回った。 ・ALTと事前に打合せを行い、役割分担を明確にすることによって、ねらいに沿った授業を展開することができた。 ・給食時にALTと一緒に会食し、英語に親しむ機会を設けた。 【次年度の方針】 ・次年度も、給食時にALTとの会食や、英語の歌などに触れる機会を定期的に設ける。 ・教職員は、打ち合わせ等、積極的にALTとコミュニケーションの機会をとるようにする。</p>
	<p>A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答80%以上</p>	<p>・生活科や社会科、「宇都宮学」を中心に、継続して、宇都宮市全体や他地区との比較検討をすることで理解を深めることができるようにする。 ・清原の豊富な地域の教材を活用した学習を様々な教科において展開する。 ・学校便りや学年便り、学校ホームページ等を利用して、児童が宇都宮についての学習を行っていることを周知していく。 ・給食の献立について、郷土料理などの提供回数を増やし、地域の食材や料理を児童に周知していく。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が86.1%、教職員が90.9%で、指標を上回ったが、保護者は73.6%で下回った。 ・生活科や社会科、総合的な学習で、清原の教材を活用した学習を展開した。 ・給食の献立について、郷土料理や地域の食材や料理を児童に伝えることができた。 【次年度の方針】 ・生活科や社会科、総合や宇都宮学等で清原の豊富な地域の教材を活用する授業計画を立て、実践できるようにする。 ・学校便り、食育だより等を利用して、保護者に児童が宇都宮についての学習をしていることを周知していく。</p>

<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の 肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内読書週間を実施し、本に触れる機会を確保し、各教科での調べ学習等にも活用するなど、自分が興味ある種類の本以外も積極的に読めるように促す。 ・校内研修で学んだことなどを授業に生かして、タブレットを活用する機会を更に増やし、コミュニケーションのツールとしても有効に活用していく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が 90.0%、教職員が 100%で数値指標を上回ったが、保護者は 79.4%で数値指標を下回った。 ・授業において、ICT機器の活用が浸透している。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、ICT機器や図書等に触れる機会を多くするだけでなく、それぞれのよさを生かしながら活用できるようにする。 ・AIドリルを積極的に活用する。
<p>2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物を大切にすることを育むために、自分の持ち物への記名を指導する。 ・学校生活の中でフードロス削減や節水等のSDGsに関する取り組みについての指導を行い、児童の意識を高める。 ・学校図書館司書と連携し、「持続可能な社会」についての書籍を取り揃え、授業の中でも活用していく。 ・「ナルクの会」に協力し、どんぐりの育成活動を継続して行う。 ・給食委員会の「牛乳パック回収」などを通し、環境への意識や思いやる心を高める。 ・児童が作成した啓発ポスターを掲示する等の活動ができるようにする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が 87.3%で数値指標を上回ったが、教職員は 77.3%で下回った。 ・「ナルクの会」とのどんぐりの育成活動や給食委員会の「牛乳パック回収」などを通し、環境への意識や思いやる心を高めた。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館司書と連携し、SDGsに関する書籍を取り揃え、学習活動の中で活用していく。 ・学校生活の中でフードロス削減や節水等のSDGsに関する取り組みについての指導を行い、児童の意識を高める。 ・給食委員会の「牛乳パック回収」や6年生の「エコ旅とちぎ」など3Rに関する活動の充実を図る。
<p>3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進</p>	<p>A 10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援委員会、月1回の情報交換会等を通して、管理職・学年の教員・教育相談担当教員・特別支援担当教員・SC等、と連携・協力して児童一人一人のニーズや悩みを把握して早期発見、解決に努める。 ・継続的に組織的な対応を行い、情報の共有・引継を確実にを行う。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が 100%で数値指標を上回った。 ・校内支援委員会、月1回の情報交換会を機会に、教職員全体で情報を共有することができた。 ・事案に対して学校全体で対応することができた。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組を継続し、チーム学校としての意識を高く維持することで、児童の求める、必要とする対応を適切に行う。

<p>3-(2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめゼロ強調月間の活動でいじめゼロ標語を作成する際、保護者と一緒に考えることとする。クラス代表作品は校舎内に掲示し、保護者にも知らせる。 ・道徳の授業参観等を機会に、学校での指導を保護者に積極的に発信する。 ・教育相談、生活アンケート、いじめゼロ集会等の取組を継続するとともに、学校便り等を活用し、校内での取組を積極的に発信する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が98.5%、教職員が100%、地域が100%で数値指標を上回ったが、保護者が79.8%で下回った。 ・朝会の際に児童に話をしたり、生活アンケートを確実に実施したりすることができた。 ・いじめゼロ標語作成を保護者とともに行わせることにより、保護者に向けて発信をした。 ・運営委員会児童によるいじめゼロ集会を行った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月の授業参観で道徳の授業を公開し、いじめを許さないという学校の方針を保護者と共通理解すると共に、児童に十分指導する。 ・取組を継続するとともに、十分に保護者への発信をするために、さくら連絡網、学校・学年だより等を利用し、校内の取組を積極的に発信する。 <p>※教育相談の実施・生活アンケート・集会活動等の実施を知らせる。</p>
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、学年だけでなく、全職員で児童を見ていくという意識を高めて、連携を密にしていく。 ・HPや学校だより、学級懇談会の機会を通して、不登校対策についての取組を保護者・地域に情報提供していく。 ・教育センターやスクールカウンセラー等との連携を深め、当該児童への学習面や生活面、保護者へのサポートを更に充実させていく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が97.3%、教職員が100%、保護者が91.2%で、数値指標を上回った。 ・スクールカウンセラー等との連携を意識して当該児童への対応を学校として行うことができた。 ・関係教職員での情報共有を積極的に行うことができ、担任が一人で抱えることなくチームで対応ができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席児童へのこまめな連絡等、積極的な関わりを行い、保護者とのつながりや連携を充実させる。 ・保護者への連絡を丁寧に行い、理解を得られるよう努める。
<p>3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「夢いっぱいプロジェクト」の実践を通して、児童一人一人が自己実現の喜びを実感できる学級経営を推進する。 ・ドリームタイムや児童会活動等を通して良好な人間関係づくりに努め、より主体的に人と関わる力を醸成していけるようにする。 ・学校便りや学校ホームページ等を通して、学校の取組を保護者や地域に情報発信し、理解と協力を求める。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が96.4%、教職員が100%、地域は100%で数値指標を上回ったが、保護者が86.0%で下回った。 ・「夢いっぱいプロジェクト」の推進・実践により、一人一人の自己肯定感の向上に努めた。
<p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>			<p>【次年度の方針】</p> <p>「夢いっぱいプロジェクト」の実践と児童会活動での良好な人間関係づくり、より主体的に他学年と関わる力を醸成していけるような機会を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPや学校だよりを通して、学校の取組を保護者や地域に発信し、理解を深める。

<p>4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モジュールの時間に効率よく学習できるように、引き続き課題の質・量・手立て等を工夫しながら支援していく。学年で計画を立てて、学習の見通しをもたせる。 ・少人数指導や特別支援教育担当等と、学級担任等の連携を深め、より個に応じた指導の充実が図られるようにする。 ・個人懇談や学級懇談会の折に、保護者からの要望を聞くようにし、学習指導に生かせるようにする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が96.4%、教職員が100%で数値指標を上回ったが、保護者が86.8%でやや下回った。 ・少人数指導や個に応じた指導、特別支援学級、日本語指導、かがやきルームの対応等により、児童一人一人のニーズに応じて効果的に支援するよう努めた。 <p>B 【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モジュールの時間に効率よく学習できるように、引き続き課題の質・量・手立て等を工夫しながら支援していく。学年で計画を立てて、学習の見通しをもたせる。 ・少人数指導や特別支援教育担当等と、学級担任等の連携を深め、より個に応じた指導の充実が図られるようにする。
<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の役割と責任を明確にした上で、複数配置による主務者の負担軽減、相互に協力しながら業務を行う。 ・かがやきルーム指導員、学校図書館司書、日本語ボランティア、SC、ALT、ICT支援員等の学校スタッフと積極的に情報交換を行い、教育活動が効率的に機能するよう取り組む。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が95.5%、で数値指標を上回った。 ・今年度も個々の役割を行うだけではなく、校務分掌等の垣根を越えて、相互に協力して業務に当たることができた。 <p>B 【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、コミュニケーションを多くとりながら、学校に関わる業務を職員全員がチーム一丸となり、協力して業務に取り組んでいく。
<p>4- (3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日課の見直しや、打合せと会議の抱き合わせ実施など可能な取組を次年度も継続し、業務改善の意識を高めていく。 ・学年便りの簡素化など、改善を図っていけるところを見出しながら、引き続き事務的な業務の効率化を推進する。 ・学校の取組を情報発信して、保護者や地域の理解を得るとともに、ボランティアの協力による支援も含めた業務の効率化を進めていく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が95.5%で数値指標を上回った。 ・学年だよりの簡素化やボランティアの活用等、改善を図ることができた。引き続き業務の効率化を図っていく。 <p>B 【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日課の見直しや、打合せと会議の抱き合わせ実施など可能な取組を次年度も継続していく。

<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 6年児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上</p>	<p>○6年児童の進学先中学校訪問、児童生徒指導強化連絡会を通して、小中学校の情報交換を密に行うことで、6年児童の中学校進学をスムーズに行う。 ・中学生と合同のあいさつ運動や要請訪問での授業をお互いに公開し合うことで、学校園としての一体感を高める。 ・6年生は中学校SCとの面談が可能となるため、中1ギャップへの対策も含め、積極的に活用を促し、地域学校園の教育力を生かしていく。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が96.7%、教職員が100%、保護者が87%、地域が100%で数値指標を上回った。 ・今年度も、学校園での情報交換や各教科・領域部会で共通理解に努めることができた。あいさつ運動等、学校園での実施の様子を学校だより等で発進したことで取り組みの周知が図れた。 【次年度の方針】 ・引き続き、6年児童の進学先中学校訪問、児童生徒指導強化連絡会を通して、小中学校の教職員と情報交換を密に行うように努める。</p>
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答90%以上</p>	<p>・地域協議会やPTAと連携し、ボランティアの協力を効果的に得ながら教育活動の充実を図る。 ・「宇都宮学」を含めた総合的な学習の時間の指導計画を見直し、地域教材を有効に活用していくことができるようにする。 ・収穫祭や昔遊び体験など、地域との連携を図りながら、児童にとって有意義で充実した活動を継続、実施していく。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が92.1%、教職員が100%、保護者が92.8%、地域が100%で数値指標を上回った。 ・スクールガードや保護者と連携した通学路の点検、登下校の見守り等を継続・実施し、児童の安全を確保に努めてきた。 ・今年度も、3年では地域の商店や施設の見学、4年ではLRT乗車や車両の基地の見学、5年では「鬼怒の船頭鍋」の出前授業を計画するなど、学習の充実にも努めてきた。 【次年度の方針】 ・来年度も、収穫祭や昔遊び体験、施設の見学など、地域との連携を図りながら、児童にとって有意義で充実した活動を継続、実施していく。</p>
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員・保護者・地域の肯定的回答90%以上</p>	<p>・月1回の安全点検を着実に実施し、危険箇所を発見した場合は速やかに修繕する。 ・学校での安全に関する活動を保護者や学校施設利用者に知ってもらえるように、事前に周知徹底を図り、未然防止に努める。 ・校庭の遊びの決まりを見直して周知を図るとともに、委員会活動において、校内のけがや事故の発生場所を「けがマップ」に表すなど、児童と共に校内の安全管理に努める。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が100%、保護者が93.4%、地域が100%で数値指標を上回った。 ・今年度も月1回の安全点検を実施した。道具の安全管理としてバッティングティアーを直したり、簡易ゴールを作成したりした。保健委員会が、校内のけがや事故の発生場所についてまとめた「けがマップ」を作成したりして、児童と共に校内の安全管理に努めた。 【次年度の方針】 ・肯定的回答が目標を大きく上回っており、今後も継続した取組を行う。 ・教職員の安全に対する意識を高めるために、職員打合せ等で気になっている事案を取り上げて、話し合いのもと改善を図り、全教職員で共通理解していく。</p>

<p>6-(2) 学校のデジ タル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデ ジタル機器やネットワー クの点から、授業（授業 準備も含む）を行うため の準備ができています。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・各教科において、児童一人一人が常 にタブレットを活用できる体制を整 え、ICT支援員を有効に活用し、授業 の充実に努める。 ・調べ学習だけでなく、ペア・グルー プ学習でもタブレットを活用し、話し 合いによって深い学びになるように努 める。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が95.5% で数値指標を上回った。 ・全教職員が、昨年度の研修を経て学 び、タブレットを活用して授業を展開す ることができた。 ・授業の中で、調べ学習だけでなく、ペ ア・グループ学習でもタブレットを活用 し、対話的で深い学びにつながるよう に努めた。 B</p> <p>【次年度の方針】 ・肯定的回答が目標を上回っており、今 後も継続した取組を行う。 ・全職員で、タブレットの有効活用を考 え、新しい学習ソフトの導入など効果的 な取組を行い、各クラスですぐに授業で 生かせるように努めていく。</p>
<p>小・中学 校、地域 学校共 通、本校 の特色・ 課題等</p>	<p>B1 児童は、時と場に応じ たあいさつをしている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地 域の肯定的回答 85%以上</p>	<p>○常時指導を強化するとともに、状 況を鑑みながら児童会主体の「あい さつ運動強化週間」を実施する。また、 清原地域学校園、地域協議会、 PTAと連携・協力してあいさつ運 動を展開する。 ・「手のひらあいさつ」に込められた 意味、意義を周知直し、活動の浸透 を図る。 ・スクールガード等、地域の方に あいさつや会釈等ができるよう、 班長会議を機会に具体的な場面を 想像させた指導を行う。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が92.7%、 教職員が95.5%、数値指標を上回った が、保護者が80.5%、地域が75.0%で 数値指標を下回った。 ・「手のひらあいさつ」を通年で行って いるので、校内・集会でのあいさつがで きる児童は多い。しかし、校外であいさ つをできる児童とそうでない児童の差 は大きくなっている。 ・地域学校園でのあいさつ運動をしっ かりと行うことができた。 A</p> <p>【次年度の方針】 ・登下校時にスクールガードリーダ ーの方等へのあいさつの仕方を具体的に 指導する。 ・「手のひらあいさつ」を充実させたり、 代わる運動を行ったりして、元気なあい さつができるよう促す。</p>
	<p>B2 児童は、きまりやマナ ーを守って、生活をして いる。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地 域の肯定的回答 90%以上</p>	<p>・社会のきまりはもとより、本校の 学習や生活のきまりを守りながら、 望ましい行動習慣の形成を促すとと もに、児童の望ましい行動や、よく できたことを称賛する機会を日常的 に設ける。 ・学校教育目標と関連を図って週の 生活目標を設定し、児童の実態や時 期に応じた基本的な生活習慣（重点 目標）の徹底を図るとともに、保護者 の協力を得る。 ・キャリアパスポートを活用し、自分 の学習や生活を振り返る機会を確保 するとともに、実態を把握し必要な指 導を行う。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が93.4%、 教職員が95.5%、保護者が94.7%、地 域が100%で数値指標を上回った。 ・「清原っ子の約束」や「清央っ子の約 束」等を利用して指導を行うことがで きた。 ・隔週変更の生活目標を示すことで、児 童のきまりやマナーへの意識を高める ことができた。 B</p> <p>【次年度の方針】 ・生活目標の達成について児童に振り 返らせることで、基本的な生活習慣の徹 底を図ると共に、望ましい姿を称賛す る。 ・キャリアパスポートを活用し、自分 の学習や生活を振り返る機会を確保す るとともに、実態を把握し必要な指 導を行う。</p>

	<p>B3 児童は家庭学習の習慣が身に付いている。</p> <p>【数値目標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答75%以上</p>	<p>○「清原っ子の約束」「清央っ子の約束」「家庭学習のすすめ」を参考にして、低学年から自主学習に取り組ませていく。</p> <p>・「カテ学ふり返り週間」を定期的を設定し、家庭と協力して家庭学習の質を高めていく。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、児童が85.5%、教職員が90.9%で数値指標を上回ったが、保護者が71.6%で下回った。 ・「カテ学ふり返り週間」の設定により、学習習慣の定着が図られつつある。家庭との連携を図り、子どもに合った内容を自主的に取り組めるように支援した。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早い時期から家庭学習の習慣を身に付けられるように、「カテ学ふり返り週間」を6月に設定し、定着を図るため10月にも行う。 ・宿題を毎日行う習慣を身に付けさせるよう工夫する。 ・「家庭学習のすすめ」を参考にして、低学年から自主学習に取り組ませていく。
	<p>B4 教職員は清央PRIDEを胸に、信頼される学校づくりに向け、協働して教育活動に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校課題に基づいて、研究のねらいを明確にしながらか協働的に研究を進める。 ・一人一授業を公開し、児童の学びの姿を参観し合い、指導法について意見を交わすことによって授業改善に努める。 ・全国学力テスト、学習内容定着度調査、とちぎっ子学習状況調査等の結果を分析し、校内研修等で検討することにより、引き続き指導内容や指導方法の工夫改善を図っていく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答の割合は、教職員が100%で数値指標を上回った。 ・授業づくりや、指導法について意見を交わすことによって授業改善につなげることができた。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校課題の研究のねらいを明確にし、宇小教研に向けて協働的に研究を進める。 ・各種調査の結果を分析し、検討することで、引き続き指導内容や指導方法の工夫改善を図っていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・児童の評価では、すべての項目で85%以上の肯定的回答となっていることから、本校児童は、全体的に自己肯定感や自己有用感が高い傾向を維持していると推察できる。
- A3「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」の項目では、児童、教職員、保護者のすべてにおいて、肯定的回答の割合が市平均を下回っている。地域学校園の教育ビジョン「自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成～人や地域との豊かなかかわりを通して～」に深くかかわる項目なので、今後は、夢いっぱいプロジェクトをはじめとするキャリア教育に関する方策を見直し、学校園全体としても取組内容を工夫していく。
- ・A7「児童は宇都宮の良さを知っている。」の項目では、保護者の肯定的回答の割合が本校の数値目標を下回ったが、市平均と比較すると同程度である。「宇都宮学」の学習において、総合的な学習「夢チャレンジ・清原学」を中心に、地域の教材資源等を活用した学習活動を更に充実させるとともに、市一斉土曜授業等の機会に、宇都宮市のよさを伝えられるように掲示物や発表内容を工夫していく。
- ・A8「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」の項目では、保護者の肯定的回答の割合が本校の数値目標を下回ったが、市平均と比較すると同程度である。宿題をはじめとする家庭学習において、一人一台端末などのデジタル機器や図書等を学習に活用する機会を増やすことで、保護者の認知度を高めたい。
- ・B1「児童は時と場に応じたあいさつをしている。」の項目において、保護者と地域住民の肯定的回答は、市全体の肯定的割合を下回っている。特に保護者の肯定的回答の割合は、ここ数年間にわたって本校の数値目標及び市の平均を下回り続けている。今後は、「手のひらを相手に向けて・・・」と呼びかける「手のひらあいさつ」だけでなく、相手に顔を向けて「おはようございます」「こんにちは」と元気に声を出すことや、声が届かないと思われる場面や声を出しにくい状況では、頭を下げるだけでもよいという一般的なあいさつの仕方を具体的に指導していく。

7 学校関係者評価

- ・授業参観時には、児童の学習している顔がとても明るいと感じた。安心して学習に臨んでいる様子が見られた。
- ・数年ぶりに本校独自の「地域協議会だより」を発行したので、地域協議会が学校行事をはじめとする様々な教育活動に協力していることや毎日の登下校時において児童の安全確保に尽力していることなどを広く知ってもらえたのがよかった。
- ・B1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」の項目において、児童と教職員の肯定的回答割合はとても高いのに、保護者と地域住民の肯定的回答割合が市の平均を下回っている。このことは、校内ではあいさつがよくできているものの、校外ではあいさつができる児童は少ないということである。あいさつができるかどうかは、本来家庭でのしつけに大きくかわることなので、この件については、学校の取組だけで改善を図るのは難しい。各自治会でも、日常のあいさつについて何らかの方策を考えていきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

- ・今年度は、全体的に昨年度より上回った項目が増えたが、地域住民の方の評価は昨年度より下がっている項目があった。○A17「学校は、小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている。」、A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」、A19「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」の3つの項目では、児童、教職員、保護者、地域住民の肯定的回答割合が、すべてにおいて市の平均を上回っている。今年度も、地域協議会やPTAと連携し、ボランティアの協力を効果的に得ながら教育活動の充実を図るとともに、学校行事や児童会活動等で一人一人の児童が主体的に活動できる場を設定し取組を工夫してきた成果が認められたものと考えている。次年度からは、本校の「夢いっぱいプロジェクト」の取組を地域学校園にも拡充し、学校園内の全小中学生がさらに自己肯定感や自己有用感を高めていけるように努めていきたい。また、学校は災害時における避難所の役割も担っていることから、今後も地区市民センターや各自治会と連携しながら、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めていきたい。
- ・B1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」の項目において、児童や教職員の肯定的回答割合はとても高い。しかし、ここ数年間、保護者の肯定的回答割合は毎年市の平均を下回っている。さらに今年度は、地域住民の肯定的回答割合も前年度より12.5ポイント下がってしまった。学校では、コロナ禍において、声は出さずとも手のひらを相手に向けて「あなたにあいさつをしていますよ」という気持ちを伝える取組を始めた。この「手のひらあいさつ」は、校内イベントとして定着し活気あふれる活動となっている。ところが、この活動は多くの児童にとって、校外でスクールガードや友達の保護者など知っている大人に対してあいさつをするという行動には結びついていないようである。今後は「手のひらあいさつ」だけでなく、学校関係者評価で出された地域住民の声に耳を傾けて、「おはようございます」や「こんにちは」などの声を出すことや、声が届きにくい場合は相手の方を見て頭を下げるだけでもよいなど、一般的なあいさつの仕方を教えていきたい。
- ・学習面については、引き続きモジュール授業を工夫して、「書くことキャンペーン」を計画的に位置づけ、全教科での学力向上を図る。個別最適な学びを充実させるとともに協働的な学びの場を意図的に設定することで、思考・表現する時間を確保し、児童が意欲的に学習に取り組めるようにしていきたい。また、様々な思考的なツールを活用することで伝え合う方法を工夫したり、ICT機器等のより一層の有効活用を図ったりしていきたい。
- 「いじめ」や「不登校」の問題に関しては、地域や保護者の関心も高い。学校では、年に6回「生活アンケート」を実施し、児童と面談しながら様々な悩みなどを聞き取る教育相談を定期的に行うなど、問題の早期発見・早期解決や未然防止に努めている。毎年対応マニュアルを見直し、教育委員会、警察、児童相談所など関係機関との連携強化を図り、組織的に対応している。保護者、地域との連携も重要であり、地域協議会や学級・学年懇談会等の機会を利用し、必要な情報については共有しながら、いじめ防止やいじめの早期解決に向けた学校の取組を伝え、学校の信頼をより高められるよう努めていきたい。また、普段の学校生活において、コミュニケーション力や友達と望ましい関係を築く力を児童に身に付けさせていくことで、いじめ防止にもつなげていきたい。
- ・清原地域学習の一環で、3年では地域の商店や施設の見学、4年ではLRT乗車や車両基地の見学、5年では「鬼怒の船頭鍋」の出前授業を計画するなど、郷土を理解する学習の充実にも努めてきた。地域の良さを知ることが大人になっても必ず役に立つので、すばらしい地域資源があることは大変ありがたいと思っている。今年度は、グリーンスタジアムや飛山城跡が改修工事のため見学できなかったが、令和8年度からは見学可能となるので、今後は例年どおり実施したい。